

質問

58歳の会社員です。前立腺がんの宣告を受け、手術を受けることになりました。主治医から、治療の前に歯科を受診するように指示されました。がんの手術なのに、どうして歯科を受診する必要があるのでしょうか。

手術前の口腔ケア



菅原 千恵子
県立中央病院歯科
口腔外科副部長

回答

がんの治療を通して口の中にもさまざまな症状が起こります。口の中のトラブルが原因で、生活に支障を来したり、がん治療を中断したりすることもあります。手術の前の口腔ケアが大切な理由を詳しく挙げていきます。

手術の際、全身麻酔では口から気管チューブを入れます。口の中の細菌が肺へ送り込まれると、手術後の肺炎の原因となります。歯がぐらついていたり、チューブの挿入時に抜け落ちて胃や肺に入ってしまうこともあります。

抗がん剤を使うときは、点滴の開始から7〜10日ぐらいで口内炎が発生します。程度に違いはあるものの、通常の抗がん剤で4割程度、血液の

麻酔時 肺への細菌侵入防ぐ



病や親知らずの炎症（智歯周囲炎）などが悪化し、がん治療を中断することにもつながりかねません。強力な抗がん剤だと、口の中にカビ（カンジダなど）やウイルス（ヘルペスなど）の感染も起こります。

放射線治療は、口の周囲に放射線が当たると、唾液腺や顎の骨に影響します。唾液が出なくなると口が渇く、虫歯になりやすい、味覚がおかしくなるなどの症状が出ます。放射線治療後に歯を抜けば骨髓炎が起こるの

また、治療による免疫力の低下が原因で、歯周

がんが骨に転移した場合は、骨折予防や痛みを和らげるために骨を強くする骨修飾薬を皮下注射することがあります。口の中の状態が悪いときにこの薬を長期使用すれば、骨の壊死や骨髓炎が起きることがあります。発現率は高くないものの、いったん起こると治療は難しく、QOL（生活の質）を落とします。

がん治療で起こる口腔症状

- 全身麻酔の手術
 - 肺炎
 - 歯の脱落と誤飲、誤嚥
- 抗がん剤治療
 - 口内炎
 - 歯の感染症（歯周病や智歯周囲炎）の悪化
 - カンジダやヘルペス性口内炎
- 放射線治療
 - 口の渇き、口腔乾燥
 - 虫歯
 - 味覚障害
 - 放射線性骨髓炎
- 骨修飾薬の使用
 - 顎骨壊死や骨髓炎

がん治療に伴う口への副作用は、治療が始まってからでは、がん治療そのものに影響を及ぼすことがあります。治療開始と同時に歯科を受診し、口腔管理をしっかり行つて副作用を少なくすることが大切です。

自分が受けるがん治療の副作用を学び、事前に必要なケアや処置を受けて治療に臨んでください。（第4土曜掲載）

治療に伴う副作用軽減

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
〈電088 (634) 6442〉
(平日午前8時半から午後5時まで)へ。